

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
看護学部・教授 長戸 和子	看護学研究科博士前期課程：教育イノベーション事業Ⅰ	H29	807,000
<b>研究概要</b>			
<p>本事業は、中長期計画に掲げている“大学院の改革から拡充”というテーマで教育・研究の質向上を目指し、多様な学修の機会を新たに設け、教育環境を整える事業の1つである。教育課程の見直し、科目の新設、履修モデルの修正を行い、家族看護学領域の高度実践看護師（CNS）コースの教育課程として拡充する。本教育課程は日本看護系大学協議会に新たな課程として申請し、認定審査を受ける。</p> <p>本学の家族看護学領域は申請時まで30人の修了生を輩出し、そのうち11人は家族支援専門看護師に認定されている。また全国で活躍している家族支援専門看護師のうち、約2割強は本学の修了生で占められている。本事業による教育課程の拡充で、これまで家族看護学をリードしてきた本研究科の教育・研究の質はさらに向上し、家族看護学の充実・発展に繋がり、さらに他領域の学生にも多様な教育を提供する一助となる。</p>			
<b>研究成果</b>			
<p>本事業では、他大学院のカリキュラム構成、家族看護学領域の実践や教育の動向等の情報収集を行い、カリキュラムの全体構造、各科目の教育目標や内容を洗練化した。今回のカリキュラム変更で重視・強化した点は、①複雑な課題をもつ患者・家族への看護実践能力の育成、②患者の病態や治療の理解に基づき、ケアとキュアを統合する力の強化、である。これらの目標を達成するために、複雑な健康問題や多重課題を抱えた家族のアセスメントと看護介入についてのシミュレーション演習を取り入れた科目や、ケアとキュアを統合した家族看護の展開方法を検討する科目を新設した。本助成金によりシミュレーション演習の教育機器を整備し、教材を購入することで、学生の教育環境の整備を行った。</p> <p>また、平成29年7月に日本看護系大学協議会へ高度実践看護師教育課程認定の申請を行い、平成30年3月に認定された。</p>			
<b>成果物等</b>			
<p>平成30年度から新カリキュラムによる博士前期課程家族看護学領域を開講し、平成30年度は2人の新生が入学し、うち1人は修了後2年目に家族支援専門看護師の資格を取得した。その後も、令和2年度1人、令和3年度1人の新生が入学している。</p>			